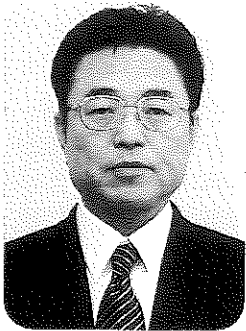


中学校長への期待

下野新聞社論説副委員長
山越克雄



私が中学校長に望むのは、現場の先生たちがのびのびと子どもたちを指導できる雰囲気づくりをすることである。

校長というのは学校の最高指導者であるから、すべての先生がその一挙一動を見ているはずである。校長はその方針と人格で「〇〇校長時代」という学校の一時代を築く。校長の持ち味というものは、その時の校風そのものだと言っていいかもしれない。その影響力を生かしてほしいと思う。

なあんだそんなことか、とお思いかもしいが、私は現場の先生たちがもっと元気になるようにしてほしいと思うのだ。ただでさえ、思春期を迎えた難しい年ごろの子どもたちを相手にするのは容易ではない。その上、今の教育現場は昔とはかなり異なる環境下であって、そのために先生たちが元気を失っているような気がする。

例えば、私たちが子どものころは学校で先生にゲンコツをもらおうと、家で親からもう一度ゲンコツを喰らったものだ。が、今は先生が子ども叱ると、逆に先生を批難する親がいるという。今の親たちは昔のように先生を畏れることがない。高学歴化や権利意識の浸透などが背景にあるのだろう。最近、親の逆襲を敬遠して家庭訪問をしない（できない）先生が増えたとも聞いている。

それだけではない。メディアが「体罰」と言う言葉に過剰反応していると思う。今言ったゲンコツなどもむろん「体罰」ということになる。私は県警担当（現社会部）のデスクだったころ、体罰事件の原稿をボツにしたことがある。本当に軽い、体罰と言えばまあ言えるという程度のもので、しかもそれを除けば、非は完全に生徒の方であったと記憶してい

る。こんな程度で記事になったら先生が気の毒であるし、教育現場が萎縮すると判断した。

先生たちが元気をなくす時代である。しかし、先生たちが悪いことを悪いと言い通せない、生徒の悪い行いを咎めることができないというのでは、教育は成立しない。

ここに校長の出番があると思う。先生たちの行動、行為が正しいと判断した時は、進めと背中を押してやる。そして最後の責任は自分が取るから安心していいと言ってやる。少なくとも、そのような姿勢や気構えでいる校長をいつも見ていれば、先生たちは余分なことは考えず、のびのびと日々の教育に専念することができると思うのである。

ところで、教育とは何であろうか。私は基本的にはライオンなら狩り、ラッコなら泳ぎを子に教えるのと同じように、子どもが自立できるようにすることだと考えている。人間に限って親による教育のほかに学校教育があるのは、人間世界は動物の世界よりも複雑だからである。

いずれにしろ、子どもを独り立ちできるよう引っ張り上げる作業が教育の原点だと思う。

とりわけ中学校というのは義務教育の最終段階である。わが国の労働行政は十五―六十五歳を労働力と定義している。つまり中学を出たら働くというのがこの国の原則になっている。古来、わが国では十五歳というのは人生の大きな節目で、武士の子は十五で元服し、姉やは十五で嫁に行っている。

最近では中卒で就職するのは少数で、先生たちは進学対策の方に忙しいのかもしれないが、義務教育（任意ではなく、義務としての教育）が社会人としての基礎部分を培うことを任務としていることに変わりはないと考える。子どもたちを独り立ち可能なところまで引っ張り上げるには、先生たちが元気でなければならない。そして、その先生たちの元気を管理するのが学校の最高指導者たる校長の役割ではないかと思う。

財政厳しき中 前向きに検討

— 県教育委員会との協議 —

総務部長 犬塚 恒 士 (宇・泉が丘中)

8月8日県教育委員会との懇談会が開催された。この懇談会は、県小学校長会と毎年行われているもので、本年度も各種の提案を行った。

会議には、中学校長会から会長、副会長、地区理事、団体理事、事務局長、同次長、広報部長が出席、そして、県教育委員会からは、須藤教育次長を始め教職員課長、学校教育課長、特別支援教育室長、児童生徒指導推進室長他各課室の関係職員多数のご出席を得ることができた。



協議会風景

今回は中学校が当番ということで校長会代表で新沼会長があいさつを行った。その後須藤教育次長よりあいさつをいただき協議に入った。

協議は、各地区校長会の意見を総務部が協議事項としてとりまとめたものに沿って進められた。大きな骨子としては次の3点である。

- 教育諸条件の整備拡充とその促進
 - ・特別支援教育推進、危機管理、各種大会の施設、団体等への助成
 - 教職員人材確保対策の推進と教職員配置の改善
 - ・35人学級の堅持、加配教員の拡充、人事、教職員評価システム等
 - 学校スリム化の促進
 - ・各種研修の厳選、各種事務手続きの簡略化
- また、義務教育の振興という観点から義務教育費国庫負担制度の堅持等々についても引き続き県から国への働きかけをお願いした。

いずれにしても県の財政が非常に厳しい中ではあるが教育振興の立場から頑張っていきたい旨の回答を得た。

参加をいただいた役員の方々並びに総務部の方々に感謝を申し上げたい。

県教委・県立高校との懇談会

進路対策部長 飯塚 克 己 (南那・烏山中)

10月31日宇都宮市教育センターにおいて県教育委員会、県立高等学校長会と中学校長会（正副会長、進路対策部員が参加）との懇談会を開催した。

各中学校からいただいたアンケート調査結果に基づき中学校長会から提案し、県教育委員会並びに県立高等学校長会より回答をいただいた。

その懇談の結果は下記の通りである。

- 1 募集方法について
 - (1) 入学選抜実施細則について
 - ア 実施細則の説明会をできるだけ早い時期に実施し、「総合的な学習の時間」の記入例をはじめ、具体的な記入例を示していただきたい。
 - (2) 日程について
 - ア 入学願書及び調査書提出、出願変更の期間を現在の1.5日から2日、または3日間にして、昼休みも受け付けいただきたい。
 - イ 入学試験日は、休日の翌日を避けていただきたい。
 - ウ 郵送（書留）による出願も認める方向で検討願いたい。
 - エ 入学願書、調査書の生徒氏名、保護者氏名の字体等柔軟に対応していただきたい。
 - 2 学校説明会について
 学校説明会を各学校ごとではなく何校かまとめて、同一日で実施していただいているが地域によっては2学期制、3学期制が混在しているので、さらに推進していただきたい。
 - 3 一日体験学習について
 (1) 県教委からの通知と高校からの通知における申し込み締め切り日を同一日にしていただきたい。
 - (2) 一日体験の案内は中学校に、申し込みは個人でというシステムについて検討願いたい。
 - 4 その他
 (1) 受験料の納入方法について、郵便局・銀行等の振込の方法を検討していただきたい。
 - (2) 願書提出を個人が高校へ提出できる方法を検討していただきたい。
- 以上が主な提案で、回答については、2の学校説明会については、今後も推進していく。3の一日体験学習の(1)については調整することになったが、他の項目については現行どおりであった。今後も三者の意見交換を継続していきたいと思っている。

那須地区中学校長会

那須地区の市町村は、合併により3市町に統合された。旧塩原町、西那須野町、黒磯市は那須塩原市に、大田原市と湯津上村、黒羽町は大田原市となった。このように市町村の合併が進む中で、学校の統廃合の声もあるが、現在の中学校数は前と同じ26校を維持している。26校の中で、6,720名の生徒とその指導に当たる540名の教職員が、日々授業や行事、部活動の指導に励んでいる。

那須地区中学校長会は、市町村の合併を受けて、組織の見直しを図るとともに、早期に学校経営力の向上やリーダーシップを発揮すべく研修に励んできた。全体での研修の機会を設けるとともに、各市町単位での研修も盛んである。

本会の年間の行事予定は、次のとおりである。

- 4月 研修会（総会他）
 - 6月 代表者研修会（教育懇談・情報交換）
 - 6月 全体研修会〔宿泊〕（研修テーマ等）
 - 7月 研修会（研究テーマ研修）
 - 11月 全体研修会〔宿泊〕（研修結果の発表）
 - 2月 代表者研修会（年度の反省、次年度計画）
- 那須地区中学校長会の特色の一つとしてあげられるのは、研修後の宿泊による

懇親会である。年2回の開催により、会員相互の親睦を図っている。

写真は、11月の全体研修会の発表風景である。



(H17.11.18 研修会)

この他、各市町の校長会において、県外先進校の視察や、会員の親睦を兼ねた研修旅行を実施している。大田原市中学校長会では、10月中に東京都墨田区の寺島中学校を視察した。45分授業実施校として、学校の実情に合わせた先進的取り組みであった。

[研修部 手塚 勝 男 (那・親園中)]

地区校長会だより

芳賀郡市中学校長会

平成17年度芳賀郡市中学校長会では全体研修会と研修部研修発表会の2回を実施した。

全体研修会は、7月1日の定例会後の研修会で、民間企業出身の宇都宮市立星が丘中学校長小谷和宏様から「私の取り組む学校経営」という演題で講話をお聞きした。

先生は会社時代と学校での仕事の進め方の違いに戸惑いながらも、民間企業の手法の良さを学校経営に取り入れ、目に見える具体的な改革実践例を話してくださいました。特に、経営計画の行動目標化、統計数値の活用（数値目標導入）、教員の職務負担の軽減化・効率化、職員の人材育成など大いに参考になった。本地区の学校実情に合わせながら、自校の学校経営に生かしていきたいと感じた、充実した研修会であった。

研修部研修発表会は、2月20日の研修会で研修部の発表があった。

本地区は、平成19年度に開催される関東甲信越地区中学校長研究協議会長野大会の第4分科会（進路

指導）において提案予定であり、本年度からその研究を進めるため「望ましい進路指導のあり方」という研究主題を設定し研究を始めた。本年度は、芳賀地区における進路指導の取り組みの現状と課題、今後の方向性を把握するためにアンケートを実施し、現状把握と課題について考察した。

その結果、進路指導については「生徒一人一人の望ましい職業観・勤労観を育てる」というキャリア教育の考え方を取り入れて教育課程を編成し、全教育活動を通して、生徒が自己の個性を理解し伸ばしながら生き方を考え進路選択できるように進めている学校がほとんどであった。各学校とも、学級活動や総合的な学習の時間で職業について学習し、職場見学やマイチャレンジなど体験活動を通して学ぶ機会を実施していた。また、二宮町の「ホームヘルパー養成講座」や茂木町の「豊かな体験活動」などの発表もあった。

次年度は、進路指導部と連携をしながら、キャリア教育について更に研修を進め、より進路指導の充実を図りたいと考える。

[研修部 石川 栄 壽 (芳・七井中)]

豊かな自然とともに

宇都宮市立国本中学校長 市村 勝 義

本校がある国本地区は、宇都宮市の北西部に位置し、校歌にも歌われている鞍掛山をバックに、南北に日光街道、その西側に並行して新里街道、東西には国道293号線が通る自然豊かな地域である。



本校の校章は図のような「蟻(あり)」のマークで、蟻のように何事にもコツコツとまじめに取り組む国中の生徒の勤勉さを象徴して制定された。この校章のごとく、生徒たちは学習や学校行事、部活動に熱心に取り組んでいる。

本校の代表的な学校行事に、お茶摘みと手もみで行う製茶がある。全校生徒で、学校の周囲に生垣として植えてあるお茶の木の新芽を、1時間かけて摘み、その後、地域の指導者のもと、7～8時間かけてお茶の葉を実際に手でもみながら、根気強く仕上げていく。出来上がったお茶は、自分たちで味わうとともに、地域内の福祉施設と小学校に届け喜ばれている。

また、部活動にも毎日熱心に取り組んでいる。校庭も広く、施設にも恵まれ、保護者の協力のもと展開している。今年度は、体育館が建設中で授業や部活動などの活動に不便さを感じているが、次年度からは新体育館で思いっきり活動ができることを楽しみにしている。

地域の行事にも積極的に参加し、地域のゴミ拾い活動や日光から市民センターまでの約33kmを歩く「国本チャレンジウォーク」にも多くの生徒が参加し、心身を鍛えている。

このように、校章に象徴される勤勉さをもって地道に努力を続け、「継続は力なり」を実践できる生徒を、地域と一体となって育てている。



製茶の一コマ

本校の特色ある教育活動を語る

河内町立古里中学校長 江 面 一 雄

小生は特色ある教育活動の展開について、次のように考えている。特色ある教育活動とは、他の学校と違う教育活動を指していることではなく、生徒の活動がきらっと輝いているものであり、本校としては生徒が励まし合いながら精一杯活動し、感動を味わい、連帯感を実感している教育活動である。具体的には運動会、合唱コンクール、卒業式などの学校行事に取り組む、生徒の活動であると言いきれる。

これらの学校行事に本校の生徒は気持ちが一步前に踏み出ている。心をわくわくさせ、積極的に活動する。体を動かし、額に汗して精一杯の取り組みを見せる。汗の中から教師の想像をはるかに超えたドラマが創られ、勝敗を度外視にした喜びに包まれる。全員が喜びに湧く。我を忘れ、夢中になって活動して、振り返る時、涙を流して感動を共にする。学級担任が「良くやったな」と褒め称える。生徒はなんとも言えぬ充実感、満足感を味わう。

卒業を目前にした頃、生徒は、「本校で学んで良かった。本校で精一杯活動もしたし、心に残る思い出がたくさんある。これも友達や先生のおかげだ。」と本校を誇りに思う。それらの活動の中では、いさかいと和解、牽引と従属、孤立と共同などの葛藤の連続であった。気の合う、合わないなどの生徒間のトラブルを学級担任は支援し、なんとか解消させた。

そうした苦勞を乗り越え感動した場面を列挙してみる。

運動会。色別対抗リレーで転倒した生徒が、投げ出さずに全力疾走し、バトンをアンカーに渡す。引き継いだアンカーは、泣きながらゴールインする。閉会式では涙が止まらない。負けたことを悔やんでいるのではない。みんなが全力を出していることに喜びを感じているのだ。

合唱コンクール。早朝から校庭を走る生徒。肺活量を拡張させるために風船を膨らませる姿。放課後、校庭で合唱している学級、当日、嬉し涙、悔し涙を、流す生徒。本校の教職員が「こんな光景を目の当たりにして、本校に勤務できて嬉しい。」と言ってくれる。

卒業式については紙面の関係で割愛。下野教育720号参照。

◆次年度の事業計画案

— 【県中学校長会の主な事業】 —

- 総会並びに研修会 5月18日(木)午後
ニューイタヤ 参加者：理事・各地区代議員
- 理事研修会
 - ・4月24日(月) 午後 県教育会館
 - ・7月13日(木) 午後 県立博物館
 - ・11月28日(火) 午後 県立博物館
- 理事・協議員研修会 2月9日(金) 午後
県教育会館 参加者：理事・協議員
- 研究大会 9月15日(金) 午後
県子ども総合科学館 参加者：全会員

— 【全日中・関地区の主な事業】 —

- 全日本中学校長会総会
5月24日(木)・25日(金)
国立オリンピック記念青少年総合センター
- 全日中研究協議会(北海道富良野市)
9月28日(木)・29日(金)
- 関地区研究協議会(茨城県水戸市)
6月22日(木)・23日(金)